

	編集/コンビニの会事務局 連絡先/〒452-0822 名古屋市西区中小田井 2-431 TEL/FAX(052)505-6082(コンビニハウス)
	障害をもつ人たちの地域生活を支援する 特定非営利活動法人 コンビニの会 定価/150円 昭和54年8月1日第三種郵便物承認

第128号



神社前にて舞いを奉納する子供達

アジアの笑顔に学ぶ

写真家 長谷川 友子

4月のまだ根雪の残る上宝(飛騨)の子供祭りの撮影に出かけた。今年は雪が遅くまで降ったために、たくさん雪が残っていた。5年ほど前から興味を持ってこの地の撮影に出かけていた。後日、それらの写真を届けていた。その写真を見た上宝ふるさと歴史館から、『もういつまで祭りができるか分からないので、今年の祭りの全てを撮影してほしい』と言われた。

19カ所の神社があり、現在とりあえず「祭り事」があるのが、12カ所で、その中でお神輿、獅子舞などがあるのは5箇所ほど。撮影中に、「来年は多分できない。子供の数が足りない」「こっちの獅子は40代の2人、あっちの獅子は中学生だ〜」と息を切らして教えてくれた。「俺は、18歳から神輿を担いで、今はここに住んでないけど、毎年呼び出されて…。だけど、いっぺんも写真を撮ってもらったことないな」と。確かに、自分の演じている獅子舞や、天狗の面をつけて舞っている人はビデオか写真で見ない限り、自分の舞い姿を見ることはないのだ。

(次頁へ)

この写真は、来年の7月から歴史館で「上宝の祭り」の展示で使用される。展示が終わり、彼らに写真が届く事を楽しみにしている。この原稿を書いている今、第5回「写真の散歩道」の企画の最終段階を迎えている。(2009年から隔年で続けている)

毎回、11月から3ヶ月間、名古屋市内の写真展に参加を呼びかけ、1つのイベントにして、写真を志す人たちの交流と発表の場の確保を目指している。今回の企画で動き出した時、市民権を得ている事を感じる。今年11月から名古屋は写真で熱くなる。



俺たち40代、向こうは中学生

雑記 ごまめの歯ざり

応仁の乱とウイル作業所

今応仁の乱がブームだそうだ。応仁の乱ってなぜ？と首をかしげてしまうが、何でも閉塞感の広がる昨今の世の中が、11年間も大乱が続いて混乱を極めたその時代とよく似ているというのが理由らしい。流行に目ざとい私の妹は早速大ヒットしている呉座勇一さんの「応仁の乱」を読んで、結局何が何だか分からなかったと言った。

興味はあるが大の歴史オンの私である。覚悟を決めてメモ用紙片手に登場人物の名前を書き留めながら、今その本を少しづつ読み進めているところである。

応仁の乱が難解なのは、なぜ始まったのか、最終的に誰が勝ったのかよく分からないところにあるらしい。有力大名の家督争い、將軍継嗣問題、権力闘争、制海権争い等々原因はいくつもあり、おまけに東西両軍の総大将であった細川勝元と山名宗全は乱の途中で亡くなっている。けれど乱を收拾する力を持つ者はいなくて、交渉上手で財テク上手な日野富子の政治力と経済力で乱は収まって行ったようだ。

しかしこの大乱で社会は大混乱に陥り、体制は崩れ、権力者たちは力を失った。実力だけがものを言う下剋上の戦国時代へとなだれ込んで行ったのである。混乱の時代に一番重要なのは実力なのだと言った時、私はなぜか先日訪れたウイル作業所を思い出した。

今ウイルは新たな施設の開所に向けて職員採用が続いている。まだ歴史の浅い施設であるウイルでは現在勤続10年前後の若い職員さんたちが中心になって、毎日の活動に取り組んでいる。しかしこの数年の間にそれぞれが経験を積み上げて実力を付けて来たと思う。自分で考え、勉強し、それを実践に生かしている様子を見て、体制は不安定ながらもこの職員さんたちの熱意は明日につながる力になっていると感じた。

(会報委員 大島 伊久代)



憲法施行70年・きょうされん40年

次世代にしっかりとつなごう 憲法と3つの柱を！

〜藤井さんと一緒にリーダーの役割を考えよう〜

きょうされん 専務理事 藤井克徳氏

学習交流会に参加して 研修報告

※3つの柱とは、きょうされんの3つの柱の事で、

「実践」「経営」「運動」のことです。



2017年7月28日(金)に、きょうされん専務理事 藤井克徳氏による学習交流会が開催されました。

この講義では、憲法施行70年きょうされん40年という節目にあたり、社会情勢が目まぐるしく動いている中、「リーダーの役割を考えよう」をサブテーマとして、実践でも、経営でも、運動でも大きな役割が求められるリーダーに、どういった現状の中で、どのような課題と向き合いながら取り組んでいるのかを共有し、解決の糸口をつかむ場として、きょうされん専務理事の藤井克徳氏より講

義をいただきました。

今回は、法人から学習会に参加した職員の研究報告をお読み頂きたいと思えます。

◇ 通所部 浅野 央裕

やまゆり園事件からちょうど一年が経過したタイミングで、今回初めて藤井さんの講演を聞かせていただきました。植松被告は自己愛性パーソナリティー障害で強い優生思想があつた事件を起した根本にあり、複数の要因から間違つた幕引きに向かおうとして

いることを知りました。今後もこの事件を風化させることなく障害福祉に携わつている我々が中心になつて注視していかなければならないと感じました。

今回のテーマである「リーダーの役割」については、自分はまた経験も浅く職員としての資質も足りない為、リーダーという存在は遠いですが、今回の講演を通して今まで自分ができていなかったこと、今後やるべきこと、意識していかなければならないことが、少し整理できたように思います。例えば、リーダーに必要な10項目(観る・学ぶ・交わる・まとまる・任せる・創る・繋がる・伝える・続ける・綴る)で現在の自分が自信を持てるものはありません。藤井さんはリーダーにはこの10項目全てが必要と言われていて、それぞれの言葉の意味をわかりやすく説明して下さいました。この他にももう一つ大事なこととして、「行動すること」をあげられていました。

行動するというのは、今自分にできることを精一杯やることで、それによつて道がひら

けるということでした。この言葉はとても深く、ただ動けばいいということではなく、自分ができることを的確に判断する為には、過度の悲観や楽観をせず、自らを客観視できることが必要であり、これは自分に大きく欠けていることだと思いました。これは現場に置き換えても、自分個人だけでなく活動グループ、所属する部署や施設、法人全体など、リーダーはそれぞれの立場で現場を客観視していかなければならず、自分もそういう目を養っていけるよう日々意識していきたいと思えます。

◇ 通所部 北島 ゆり香

講義の中で学んだことは沢山ありますが、特に「リーダーに求めているもの」の中で「伝えること」の大切さを学びました。私は、物を伝えることが苦手で、言われたことを覚えてそのまま伝えるという伝え方をしていました。人に何かを伝える時はまず、自分がその伝えることを理解しなければ、相手に伝えられないと教えていただきました。

人に伝えることは相手の為だけではなく自分が学ぶ機会でもあり、口下手であっても自分が理解して自分なりの言葉で伝えていこうと感じました。

もう一つ印象に残ったことは、イソップ童話の「3匹の蛙」の話で、「3匹の蛙が牛乳の容器のなかに落ちて、悲観主義の蛙は、何をしてもどうせだめだからと考えて、何もせずに溺れ死にました。

楽観主義の蛙は何もしなくても結局うまくいくだろうと考えて、何もせずに溺れ死にました。

現実主義の蛙は、蛙にできることはもがくことだけだと考えて、もがいているうちに、足元にバッテリーができたので、バッテリーをよじのぼって、ひと飛びして容器の外へ逃げ出しました。」この話を聞いて、悲観的になりすぎても、楽観的になりすぎても、何かアクションや自分たちが行動を起こさなければ、何も始まらないと学びました。



◇ 通所部 曾我 美保

私は5月初旬からこの業界（障害者施設）に転職しました。この数か月で色々考えさせられる事も多く、そして当たり前のように思っていたことが、当たり前で無かった事を知りました。

今回の研修でまた、障害福祉に関わられた多くの方々の強い願いがあつて今がある事を改めて知ることが出来ました。日本国民の権利である選挙権も人権を守ろうと言うデモ行進や努力で1945年に実現されたと聞きました。この事実は学校の授業でも学びます。しかし障害者の義務教育が当たり前前で

は無かった事は大変驚きました。この事は誰も教えてくれませんし、全く知らなかった自分が恥ずかしくなりました。人間は興味がない事には関心を示さない生き物です。全員が障害者が義務教育を得る為に、障害福祉に関心の乏しかったであろう時代にどれほどの努力が必要だったか計り知れません。

そして、駅のエレベーター。今は荷物が多い時、足が少し悪い時、体調が悪い時、疲れた時など私を含め多くの人々がこのエレベーターに助けられています。しかし、この駅のエレベーターも最初の交渉は、一つのエレベーターで何が出来る」と笑われたと言っておられました。最初の一步がどんなに大変だった事でしょう。私たちはもう少し色々な事に関心を持ち、感謝して生きなければなりません。

エレベーターのお話をお聞きして、私の中で一つ忘れられない出来事を思い出しました。私の娘の幼稚園の同級生の男の子の話です。彼は難病（多分、筋委縮症）でした。小学校は隣の別の学校になりました。彼が行っ

た小学校は古く、毎日親が移動教室の度に学校に来ていました。すぐ近くに通う娘の小学校は新設校でゆくゆくは老人施設にもできるようにバリアフリーになっていて、エレベーターの設置がある小学校です。私の市ではこの当時、どれだけこの親御さんが市に訴えてもこの新設校への越境を許可してくれませんでした。

彼が5年生の時、新人の先生が担任になりました。この担任の先生はある日、移動教室のある事を親御さんに伝え忘れて、自力で移動できない彼は一人自分のクラスで1時間過ごしました。小学校までは普通の学校で過ごしたかった彼がこの次の日に養護学校に行くことを決めました。この話を後ほど聞いた私は涙が止まりませんでした。なぜ、障害者の親だけがこんなに頑張らなければいけ



ないのか？なぜもつと地域社会は助け合わないのか？なぜ行政はエレベーターのある近くの小学校に越境を許可できなかったのか・・・と。

藤井さんの3匹のカエルの話は私の心に響きました。必要以上の悲観はつぶれてしまふ。何も考えず、楽天的すぎてもつぶれてしまふ。色々な知識を得ながら、行動しない事には何も始まらない。そして人と付き合うことの大切さ、人と人の繋がりを大切にしながらはいけません。

今後の私たちの役目。大川理事長の言われる、「無知は罪、障害者に対する理解がないことで起きた安永健太さんの死は、警察官が一人の人間として、障害者に関心が無いから知識も無く、従って理解できない結果として起こりました。「知らなかったから、解らなかった・・・」では済まされたいと思います。そして、一人でも多くの理解者を得て障害のある方々が幸せに生きられる社会を作ろうと始まったエゼル福祉会の活動にあらためて共感をおぼえた研修会でした。

「想定外」をなくすには

エゼル福祉会は

災害にどう備えるか

生活支援部 主任 榊原 芳典

7月に発生した九州北部豪雨など、近年、集中豪雨の被害が各地で発生しています。昨年は、岩手、北海道にも台風が上陸して大きな被害をもたらしました。

また、熊本地震では家屋倒壊や土砂災害によって50名の方が亡くなり、関連死を含めると死者200名以上という東日本大震災以来、最大の地震被害をもたらしました。熊本では、今も4万人を超える方々が避難生活を強いられています。

訓練や備品の貯蔵など、あらかじめ準備しておくこともありますが、近年の災害の特徴として「想定外」の被害があげられます。

先日、施設職員向けに防災に関する行政の説明会がありました。近年の集中豪雨等は都市の排水機能、水害対策の想定を超えているため、水害が発生するリスクを前提に各施設で避難計画等を準備して欲しいという話でした。この説明を聞いた時、結局、自分たちの身は自分たちで守るしかないのだなと感じました。

エゼル福祉会では、数年前に、法人内で独自に防災マニュアルを策定していくべきだという話が持ち上がりました。

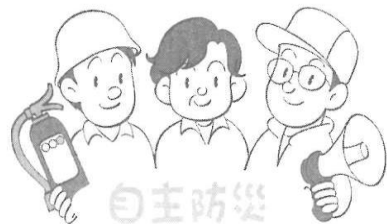
私たちが活動する名古屋市西区の河川流域は東海豪雨で多数の浸水被害にあっています。被害を経験し、実際に支援に携わった方々からは、障害のある方の命と暮らしを守るために、平時から法人として防災マニュアルを策定し、組織的に活動できる体制を整えておくことの大切さが説かれていました。

法人内で防災

マニュアル作りが始まりましたが、担当者会議を開く度に不足している部分が指摘され、修正を繰り返していました。

その結果、丸1年を過ぎても完成に至らず、災害に備えるためのマニュアル作りの前が、「このままではマニュアルが完成する前に災害が起きてしまう」と、本末転倒な状態となっていました。

マニュアル策定にあたって、認定NPO法人レスキューストックヤード(※注説)の方に助言を頂きましたが、はじめに言われたのは「できることから始めよう」という言葉でした。偶々まで完璧なマニュアルでなくても、大切な一致点だけは確認できるものをまずは周知し、必要に応じて修正していくことが完成を急ぎました。



ようやく法人としての防災マニュアルが完成し、主任や法人本部の近隣に住んでいる職員を中心に、大規模災害時の初動対応訓練を行う機会がありました。職員が出勤して

いない早期等に大きな災害が起こった場合、対策本部の立ち上げは、役職を問わず法人本部に到着できた者が行う規定になっています。訓練は、大きな地震が起こったケースを想定して、まず近隣に住む職員が本部に駆けつけ、

従業員やサービス利用者等（障害のある方や、その家族等）に安否確認を開始し、出勤可能な職員が順次本部に集まってくるという流れで行いました。その際、安否確認の連絡が届いていない人がいたり、電源が確保できずパソコンが使えなくなつた場合どうやって

情報の発信・集約をするかなど、初歩的な課題にも気付かされました。

その後、法人内の全職員研修では初動対応訓練の反省や改善点を報告しました。その研修のなかで、「災害が発生した時、職員それぞれに都合はあると思いますが、障害のある方の支援を仕事にしている者として、『少し

でも早く』本部に向かうという気持ちを持つて欲しい。」という話が出ていました。

災害時、行政がはやくから機能していたり、ライフラインが復旧していく光景を目にします。そうした仕事に携わっている方は、自身や家族が被災していても、職務を遂行するために可能な限り速やかに仕事に戻られているのだろうと想像します。

自分たちに置き換えると、被災した障害のある方たちの暮らした命が守られるかどうかは、自分たちがどれだけはやく支援者として業務に復帰できるかにかかっています。毎年行われる防災研修の折には、このことを職員全体で確認し、一人ひとりが意識できるようにしなければと思います。

これから訓練を重ねるなかで、新たな課題も見つかると思いますが、その都度、改善を続けることで「想定外」を減らしていきたいと考えています。

※認定NPO法人レスキューストックヤード

1995年の阪神大震災をきっかけに生まれた「震災から学ぶボランティアネットワーク」が前身。被災地へのスタッフ派遣のほか、ボランティアと被災地をつなぐ活動を手がける。

平時の活動として、防災にかかわる講演会や、地域の防災関連行事の運営企画を行う団体。

2002年にNPO法人化。
2015年認定を取得。

名古屋市中区泉1-13-34名建協2階
電話 052-253-7550



《活動状況》



7月

- 2日 ヘルパー学習会
- 3日 コーチング研修 (坪内)
- 5日 行動援護従事者研修 (溝口)
- 6日 知的障がい者研修
(稲垣・峯・有満・増田)
- 7日 評議員会
- 7日 事業所連絡会会議 (榑原)
11. 18. 25日 行動援護従事者研修 (峯)
- 12日 名古屋市法人集団指導
- 15日 喀痰吸引研修 (久野)
- 20日 会報発送
- 24日 障害福祉制度 手嶋先生 講演会
(榑原・木村・若林・久野・伊藤・坪内)
- 27日 W I L L親の会
- 28日 きょうされん 藤井先生 学習会
(有満・浅野・北原・北島・曾我)

8月

- 2日 会報会議
- 4日 事業所連絡会会議 (榑原)
- 5日 中小田井学区盆踊り設営 (久野・山下)
- 6日 ヘルパー学習会
- 7日 台風のためウイル閉所
11. 17. 24. 31日 実務者研修 (峯)
22. 23日 防火管理者講習 (久野)
- 13日 自立支援協議相談支援部会 (寺沢)
- 25日 ケースワーク会議
26. 27日 総合社会福祉研究所研修
(大川・木村・馬淵・寺沢・有満・佐藤)
30. 31日 相談支援初任者研修 (坪内)



コンビニハウス クリスマス会のお知らせ

毎年恒例のクリスマス会を下記の通り開催いたします。
皆様からのお申し込みをお待ちしています。

- 日時 2017年11月23日(祝・木) 13:00 開演予定
- 会場 名古屋市総合社会福祉会館(北区総合庁舎) 講堂
名古屋市北区清水四丁目17-1(地下鉄黒川下車徒歩5分)
- 定員 80名(定員になり次第、締め切ります)
- 参加費 600円(チケット代)

プログラム：西陵高校ダンス部によるパフォーマンス・
バンド演奏・お楽しみ抽選会 他

参加申し込みはコンビニハウスまでお願いします。

連絡先：電話/FAX 052-505-6082

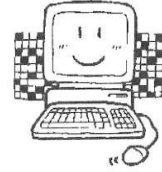


事務局コーナー



「ご協力ありがとうございました」

7月～8月（敬称略・順不同）

★ ご寄付いただいた方々

(NPO 法人コンビニの会)

※会報購読料1万円以上お振込みの方

矢崎 正一
黒崎 とし子
山上 小枝子
アイ
トクメイ

★ 物品寄付をいただいた方々

(コンビニハウス)

棚瀬さおり 塩沢しのか
本田 真 佐藤 慶太

(WILL)

桑名 妙子 朝比奈 幸生
河田 笑子 塩沢 しのか
浅井 宏紀 近藤 愛季美
佐藤 慶太 加藤 美智子

★ 活動にご協力いただいた方々

(コンビニハウス)

大森 信 伊奈晶子 石原正寅 青木政治
加藤 結 辻本道子 桑原諸彰 黒田隆広
林 和子 高塚朱美 藤本菜見 堀 浩二
曾我直子 大瀧宥乃 楠村ゆき 加藤志歩
石原まち 田口陽介 加藤礼菜 奥村 修
寺西 剛 土田京加 星野恭兵 勝野観月
水谷友香 辻本有沙 鬼頭優菜 藤本由紀子
水野裕哉 辻本沙利菜 寺田みどり
赤坂美登里 酒井まみ子 三浦結梨恵
茂手木 利典

(WILL)

武部 文 須田たみ子 戸荻 佐知子
伊藤 篤志 吉田 恵美 鈴木 由莉香

★ 会報発送ボランティア

佐藤美紀子 半田素子
吉田嘉子

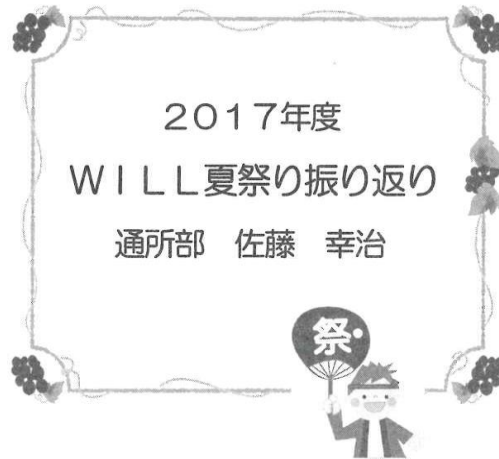


ウイルで7月17日(月)に夏祭りがありました。今年で5回目となる夏祭りの開催です。ご参加下さいました名古屋特別支援学校の皆様方とウイルの親御さんには、感謝の気持ちでいっぱいです。

「まず、今回の祭りのテーマは「ありがとう」というテーマでした。このテーマにした理由は、親御さん・職員・仲間が普段からなかなか「ありがとう」という感謝の気持ちを伝えられないことや「ありがとう」と言われると誰もが幸せな気持ちになれるので、このテーマを選びました。

祭りの企画を考えていく中で、今までの祭りの反省点として規模を大きくしてしまうと、職員が中心になってプログラムが進んで行く傾向が強く、肝心な仲間の参加場面がおろそかになりがちだと言うことが挙げられ

ておりました。その反省点を踏まえて、規模を縮小して祭りに仲間が参加することに重点を置き、それを意識して取り組みました。



祭りへの仲間の関わり方を変えたことで、職員と仲間の関係が全体的に深くなっただと思えました。

夏祭りをやるには通所部ウイルの部屋は小さいなどの課題はありましたが、夏祭りを通じて、普段の仲間の様子とは違った一面を発見することができたことや全員で祭りに参加できたことは、今までの中で一番成功した祭りだと思います。今回の経験を、これからの実践に活かしていきたいと思えます。



たくさんの笑顔に囲まれて ♪ 楽しい夏祭り

ありがとうが聞こえて

通所部 有満 義昭

通所施設ウイルで今年も夏祭りを開催することになりました。

今年のテーマは「ありがとう」

一人一人が感謝の言葉を、その人らしい方法で伝えていくことが決まりました。障害のある仲間たちの思いを事前に聞き取り文章にして、当日会場にお集まりの皆さんへ披露させてもらいました。

やはり、一番多かった「ありがとう・・・」は、お母さんに対する感謝でしたが、職員から障害のある仲間たちへの「ありがとう・・・」も印象的でした。

仲間達の今までの活動の様子や思い出の写真を上映したり、音楽発表会や演劇など、それぞれがその人らしく参加出来て、ちょっと感動的で楽しい夏祭りとなりました。

その中からSさんと一緒に準備を進めてきた「ありがとうのコーナー」のお話をご紹介します。仲間や職員が主役になり、普段伝えることが出来ない感謝の気持ちを手紙に綴り、お客さんの目の前で朗読するこの出し物には、抽選で4人の仲間が選ばれました。その中の1人にSさんがいました。仲間1人1人に発表の時間があるので、私はSさんの黒子として「ありがとう」の原稿を一緒に考えることになりました。知的に障害があるSさんに「感謝を伝えたい人はいませんか？」と抽象的な聞き方をし

も、返事に困るだろうと思いました。Sさんが答えやすいように配慮をして聞いていくことが黒子の役目です。しかし、私が出した質問とSさんの答えがしつかりとかみ合っていない違和感を感じる時がありました。例えば「家族は大事？」と聞くと「大事」と答えてくれることです。実際にそう思っ話をしていてると思いますが、大事＝嫌いな事が1つも無い、イライラする事も1度も無い、となれば、Sさんの気持ちを代弁する上では不十分だと感じました。質問式の聞き方では、本当の気持ちは出しづらい。そのことに気が付いてからは何気ない雑談の中から手紙に必要な言葉を選んでいく方法にしました。



場所は車の中です。施設内でも話をしましたがSさんが一番リラックスして話せる場所は車の中であることが分かったからです。Sさんの大好きなコーヒーをコンビニで買い、隣り合わせに座って冗談話を交えながら本当の気持ちを探っていきました。

手紙の内容は、両親に対しての感謝と、忙しそうに介護をしている母の体の心配、父への思い、Sさんが頑張っていることをもつと褒めてほしいこと・・・といった内容になりました。長文になった為、朗読することは難しいと思いました。少し短くして読んでもらい車の中で録音する方法にしました。

お祭り当日、Sさんはかなり緊張していましたが、それでも手紙を母親に渡す時「ありがとう」と声を出して伝えることが出来ました。とても温かな瞬間でした。大勢の前で発表することはSさんにとっても難しい



忍者隊の劇より 「姫が狙われる!!」一場面

ことだったと思います。しかし、最後まで頑張ってくれた姿を見て家族への深い想いを感じると同時に、支援者としてこれからも仲間達の言葉に出来ない気持ちを伝えていくお手伝いをしたいと思いました。みなさんは感謝の気持ちを、ちゃんと伝えていきますか？

銀行口座

三菱東京UFJ銀行 小田井支店 店番238 (普) 口座番号1440108
特定非営利活動法人 コンビニの会

郵便振替口座 番号 00800-2-35190 コンビニの会

ご意見・ご質問・お問い合わせは下記までお寄せください。〒452-0822 名古屋市西区中小田井2-431
障害のある人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人

コンビニハウス Tel (052) 502-7731

Fax (052) 505-6082

コンビニの会

理事 宮川 優子

URL <http://ezeru.sakura.ne.jp/>

E-mail convini@beach.ocn.ne.jp